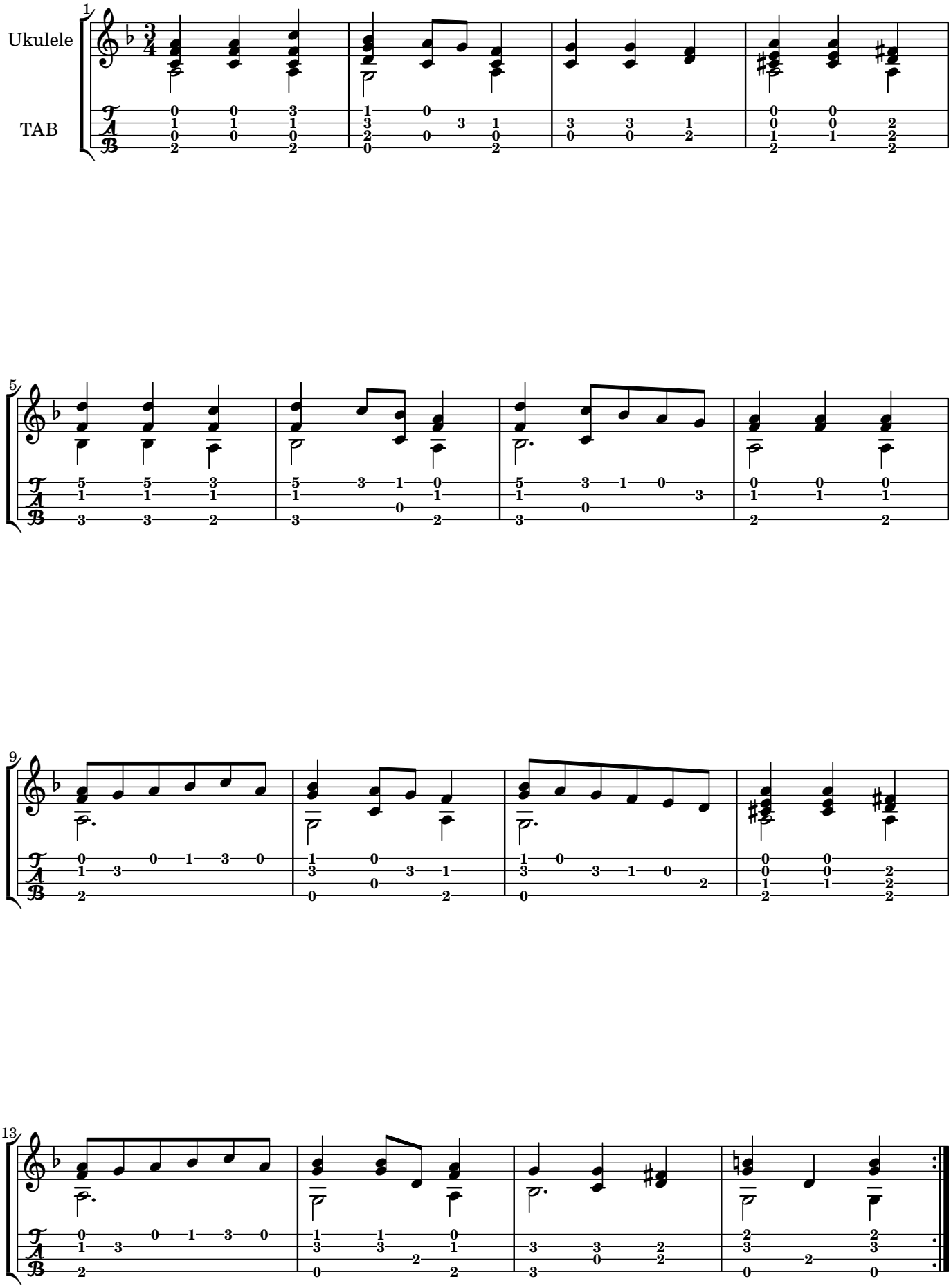
Gaillarde la peronnelle

Low-G ukulele | standard notation & tablature

Adrian Le Roy (1551)

Transcription from supplied facsimile



Provisional reading - editorial notes on page 2

ガイヤルド・ラ・ペロネル

Gaillarde la peronnelle ／ 解読・演奏の注記

原資料とこの版

Adrian Le Roy『Premier livre de tabulature de guiterre』第一巻（パリ、1551年）所収、f.16v。今回お預かりしたスクリーンショットに写る全16小節を対象としました。次頁の「より細かい変奏」は含みません。曲名・刊年は原刊本の目次・標題紙および図書館の書誌で照合しました。

読み替えの方法

フランス式TABの上段から順に、現代ウクレレの第1〜第4弦へ対応させました。a＝開放、b＝1、c＝2、d＝3、f＝5フレットです。使用範囲は0〜5フレット。低い方から G3–C4–E4–A4 のlow-G調弦で、原譜の押弦位置を保持しています。歴史的な楽器の絶対音高や複弦のオクターヴ配置を確定するものではありません。

拍子・音価・保持音の解釈

現代譜では3/4拍子に整理し、上のリズム記号は1旗＝四分音符、2旗＝八分音符に対応させました。同じ記号が省略された場所では直前の音価を継続します。原譜の音符下の点は右手の奏法に関わる記号と扱い、付点リズムにはしていません。
第4弦の低音は五線譜の下向き符尾で表し、原譜の斜線を保持の手掛かりとして、次の同弦の発音または小節末まで伸ばしました。斜線のない箇所の低音持続も編集上の判断です。上声・内声は次の発音までの音価で記譜していますが、指が許す範囲で響きを残してください。

推定を含む箇所

・第10小節、第3拍のリズム記号（画像の中央付近）は汚損しているため、四分音符と推定しました。小節全体は「四分・八分・八分・四分」としています。
・第8・9・13・14・16小節などの斜線は、滑奏ではなく低音を保持する指示として解釈しました。保持の厳密な長さはこの版で補っています。
・最終小節の上段は c（2フレット＝B4）と読み、終止をGの長三和音系の響きとしました。原譜終端の反復記号は全16小節を繰り返す形に置き換えています。
この版は画像に基づく暫定的な実用転写です。音を新作して補った箇所はありませんが、音価・声部・保持には上記の解釈を含みます。

MusicXMLについて

五線譜と4線TABを併記し、丸付き弦番号は入れていません。TABの数字はフレット番号です。MuseScore 4で開いて編集するためのMusicXMLです。MusicXMLでは五線譜とTABの編集連動は保証されないため、片方を修正した場合はもう片方も確認してください。

照合資料

原刊本ファクシミリ：標題紙・目次・該当曲
https://www.classical-guitar-sheet-music.com/apdfsdelcamp/facsimile_1551_Le_Roy_Adrian-Premier_livre_de_tablature_de_guiterre-Paris.pdf
図書館書誌：https://www.loc.gov/item/consortium.bl_004479160
保持・奏法記号の参考：Sarge Gerbode, Adrian Le Roy’s Fingering Notations
https://browse.lutemusic.org/sources/LeRoy/fingering_notations.html